

令和5年度 若葉保育園 自己評価

- (1) 保育方針 ・睡眠時間を確保し、情緒の安定を図り、主体的に物事に取り組む子を育てる・よく見るよく聞くよく考える保育で子どもの感性を育てる・食育と体育で心と身体を育てる・子どもの様々な自立を目指し、保護者や地域と協力して生きる力を育てる
- (2) 保育目標「のびのび いきいき 若葉っ子」 ・心身ともに丈夫な子ども ・自分の事が自分で出来る子ども ・感性豊かで思いやりのある子ども ・表現を楽しみ学びに関心を持つ子ども ・我慢する心と考える力を持つ子ども
- (3) 現状（前年度の成果・課題・改善策等）
- (4) 今年度の努力点・重点目標

定員を 70 名にする事や産休育休を取る職員がいる事で、職員の採用を考えないといけないが出来るだけ経費がかからない採用をしたい。その中で、職員の働き方改革や職員間の仕事量や待遇の差等の不公平感を考えて対処していかないといけない。昨年は大きなクレームはなかったが、不適切保育に対して世間の目が厳しくなっている。また園児の取り残し等、確認について一段と責任が重くなり、職員が気を張る場面が多くなっている。対策は考えつつ職員の、ゆとりやリフレッシュ等も考える必要がある。園内研修シートやチェックシート・自己評価等やるべき事が重なり、負担になるという声も聞かれたので、今年は毎月何か1つやれるように、やるべき事を整理しようと思う。また、不適切保育にならないように、日頃から職員が意識する事が大切なので、優しい声掛けや対応が出来るように、重点目標にしたり SDGs の取り組みに取り入れたりして園全体で意識出来るようにしたい。	職員と子どもが落ち着いて生活が出来る事が大切だと思うので、重点目標として、落ち着いた生活環境を作る事・しっかりとした保育の目標を持つ事・保護者に寄り添い気になる子も共に育てる意識を持ってもらう事を上げる。SDGs の取り組みも、他人や自分が大切に出来るようになる取り組みを考え園全体で子どもとしっかりと関わり大切にされている実感が持てるようにしていく。マンネリ化している月間絵本の読み方も考える。職員により意識の差がかなりあるので、ゆとりも大切にしながら研修をしっかりと考え、意識向上に繋がるようにしたい。仕事を持ち帰らない・なるべく残らずにすぐに帰宅する等の意識はぜひふんついできたように思うが、職種や意識にも差があるので、なるべくみんながやるべき事をさっさとやって帰れるように職員間の連携を強化していく。
--	--

- (5) 自己評価
4. とてもよく出来た 3. だいたい出来た 2. あまり出来なかった 1. ほとんど出来なかった

評価領域	評価する重点目標	職員アンケートから	保護者アンケートから	達成状況（成果や課題）	評価	関係者評価	評価	総合評価
落ち着いた生活環境を作る	◎否定語を使わずゆっくり静かな言葉で話し、ゆっくり丁寧な行動で接する ・サークルタイム等で、自分の思いを自ら考えて人前で話せるようにする ・人に関心を持ち、進んで挨拶や返事が出来るようにする ・個人絵本は、1人1回は膝に抱いて読み、1カ月20回は読んで持ち帰る	だいたい出来たとする職員が多いが、個人の意識の差や項目による差が大きい 成果が出るほど取り組めたのか、疑問が残る	保育のテーマが Love&peace にしていた事もあり、人と関わる事への取り組み、特に絵本やお話については全員の保護者から出来ていると評価された	保護者にチャレンジ目標として一緒に取り組んでもらった事もあり、保護者の評価はよかったが、実際に園全体として変化はあまり感じず、成果が出るほど職員全体で意識して出来たのか人任せややっているつもりになっていないかと思われる	3	作品展等を見ても今年の園の取り組みは努力をしている	4	4
ミネラル補給と生活リズム作り	◎メディアの弊害を知り、保護者や子どもを巻き込んで、生活環境の改善を行う ・ミネラルの大切さを知りしっかり取り入れた給食作りを行う ・あいうべ体操や姿勢保持と体力作り活動をしっかり取り入れた保育を行う	ミネラルやメディアについて職員間の認識に差がある なんとなくの理解で説明出来ない人任せの職員もいる	ノーメディアディや絵本の利用やミネラルの大切さ等伝えてきたが分からないと答えた人が思ったよりいた	職員は、メディアの弊害・ミネラルが大切と言われるので、なんとなく知っているだけの人も多く、保護者に必要性を説明したり、訴えようと努力したかと言えば不十分だった 個々の認識を深めるべき	2	ミネラルの取り組み等よくやっている。周りが難しいのは仕方ないところもある	3	3
育てたい子どもの姿を明確にした保育	◎目的を持って子どもと関わり、あいまいな対応や返事をせず、些細な事も出来るように仕向け、出来たら褒める ・保育環境を整理整頓し、ねらいを持った立案に基づき、やりたくなる保育をする為の環境設定を怠らない ・目的や意味を子どもにきちんと伝え、保育の振り返りを行い、改善点を明確にして次の保育に活かす	職員も一定の努力をしてくれているのだと思うが、認識の差や力量の差はある 行事前や忙しい時にはおろそかになる事も多かったのではと思われる 子ども主体を徹底すべき	保育内容に関して、一定の評価をされている 分からないと答えた人もいて個々の発達に合っているか分からないという事なのかもしれない	保護者の保育に対する評価は高いが、中には分からないと答える人がいて、個別の対応を求めると思う クラスだより・ドキメンテーション等なるべく保育内容を知らせているが、こちらの大変さや努力が伝わりにくいと思う 参観を増やす事や個別の対応をもっと検討すべき	3	自分達が努力をしているところはもっと評価してよい。それでないと職員の士気が下がる	4	3
保護者とパートナーシップを深め、共に子どもを育てる	◎年齢に応じた基本的生活習慣の自立と生活リズムや食事・運動の重要性を具体的に伝え連携と支援を行う ・チャレンジ目標は、何のために取り組むのか趣旨を伝え、親子でしっかり関わってもらう ・保護者の思いに共感し、お帳面も有効活用しながら園での様子を伝え、共通認識の基 発達支援を行う	パートの職員が保護者と関わる時間が少ない為関係性に不安を持つ人がいる 少ない時間でも子どもの様子を把握し伝える責任を持たせたい	保護者との連携が大事と園は思っているが、出来ていないと答える人が数名いて気になった お便り等のお知らせ方法に工夫や声掛けがもっといる	保護者も自分を見て構って欲しいと思う人が多い気がする もっともっとと求めて来る人に丁寧に関わる事も必要だが、言えずにいる人にも注目し園がしている事を丁寧に伝えていき、どの保護者にも共に子どもを育てられる支援がいる	2	今後もっと周知の仕方や共有の仕方は工夫していく事を望む	3	3
職員の資質の向上	◎笑顔と優しい言葉・挨拶や返事を職員が丁寧に言い、保護者に説明責任を果たす為、伝わりやすい工夫をする ・職員はお互いに尊重し、思いやりを持って接し、優しく教え合って新任や初心者とも協力協働する ・職員の一員としての自覚(遅刻をしない・期限を守る・報連相を怠らない・他人に迷惑をかけない等) ・自身の指導や援助を日々振り返り、意識と技術の向上に繋がる園内研修を主体的に行う	毎朝朝礼で気を付ける事を唱える等心掛けられるようにしてきた為ありがたい出来ているという人が多かったが、みんなが優しい気持ち思いやる気持ちで積極的に来たかには課題が残る	職員の笑顔や挨拶が良いという嬉しい意見も多く概ね保護者の評価は良好だった 保護者への説明や個別の対応についてももっと必要と思う人もいる	保護者に対しては、笑顔や挨拶はだいたい出来たとと思う人が多いが、職員同士では何度か注意する事もあった 職員が子どもの手本にあるべきだと思うが子どもの出来ないばかりを気にしてないか等反省すべき点もある 期限を守る・報連相等まだまだ意識が薄い人がいる・個人を否定しないと言っているがお互いの良さや立場を認められていない事もある	3	価値観や意識の統一は大事な事。今後の取り組みに期待する	3	3
業務改善と地域連携	◎職員の意識改革や統一を行い、保育の事前準備や行事の準備・書類の整理等は全員が平等に協力して行う ・効率化や時間の利用法を工夫して働き方改革を進め、必要な残業はきちんと申請して行う ・感染防止マニュアルを周知し、感染予防の徹底や健康増進の取り組みを保護者の協力の下で行う ・子どもの現状と課題を職員全員で共通認識し、地域の専門家と協力・連携して発達支援を積極的に行う ・保育園の理念や活動を地域の方に知ってもらい、地域と協力し合える体制作りに努める ・災害時・事故や緊急時の対応等、一人ひとりの職員の責任意識や共通理解を深め地域と協力していく	職員はだいたい出来ていると感じる人が多い 働き方改革では無駄に残る人はいなくなり早く帰る意識もついてきた 職員の共通認識や意識統一は難しい事が多く、自分の事として捉えていない・関心がないといった態度が無意識が見える人がいる もっと自分の事として取り組めるとよい	感染対策や安全対策について園の取り組みを分からない人がいた 特に専門機関との連携については保護者が分からないと答えた人が多く、該当する子やその年齢の子の保護者だけでなくすべての保護者に周知する取り組みがもっといる	山火事があった事で、日頃の避難訓練等の成果が出ていたと感じてくれた保護者も多かった 専門家や学校との連携は対象者が限られるので全ての保護者の理解を得る事は難しいが、もっと発信の努力もいる 感染対策等状況を見て対応して行った事はよかったが、マスクの弊害等今後考えるべき課題も多い 職員はみんなが自分の事だけでなく全体の事にも関心を持ち一緒に考える姿勢を持つ意識改革や体制作りを考えていく	3	個別対応が必要な物もあるので分かりにくいところはあるが、地域との連携や安全確保・感染対策等努力をしている	4	3

(6) 園の評価の総括

年間テーマを SDGs の中の人と関わる事をテーマとして「love&peace」を目標に取り組んできた事はよかった。子ども達は、大人との関わりを求めていると感じる事も多く、園でもしっかりと「大好き」「ぎゅ」と伝え触れ合い、それを保護者にもチャレンジ目標として家庭でも取り組んでもらった事は更によかった。子ども達の落ち着きは目に見えて成果があるとは言えないが、個々に見ると変化が見える子もいる。その取り組みの象徴としてハートを使った事も分かりやすくて良かった。年間通して目標の取り組みを唱着言葉として毎朝唱和する事で、個人差はあるが職員の意識の統一にも繋がったと思う。運動会や作品展にも取り入れ年間通して園が大事にしてきた事を今年は地域の方々にも見て頂けた。今年は、年長の人数が多かったので活動は見ごたえがあった。保護者も保育内容には満足している人が多いが、保育者の関わり方は、子どもの主体性を育てる物だったかは今後検討がいる。給食で、ミネラルをしっかり摂る取り組みやノーメディアの必要性等、育ち盛り子ども達に大切な取り組みをしているが、保護者や地域への発信の仕方が不十分で、保護者の中には関心のない人や分からないと思っている人がいる。その原因は、必要性を職員がなんとなく分かっている程度で、説明をしっかりと出来るほどの知識がない事も問題がある。何事も自分の事として学ぶ姿勢がどの職員にも欲しい。保護者と子ども達の為に、園の近くに駐車場と農園を整備する事になったが、新しい事へ取り組む為にも、ご近所の理解は欠かせないと改めて思った。

(7) 次年度取り組む改善策

今年取り組んできたチャレンジ目標の「大好き」「ぎゅ」は続けて取り組んでいきたい。子ども主体の保育をする為にも、子どもにとって必要なミネラルの摂取やメディアの弊害や睡眠時間の確保の必要性を、もっと職員が勉強し保護者に自信を持って説明出来るようにしないといけない。その事を家庭でも取り組んでもらえるような仕掛けを考えていきたいし、しっかりと園からクラスから等いろいろな方法で発信していきたい。相手に伝わる挨拶や否定語を使わないという取り組みも上げてきたが、成果として上がっていないので、引き続き取り組んでいく。行事等で忙しい時や心にゆとりがない時に保育者が子どもの手本になるべきなのに、きちんと出来ていなかったり、つい言葉がきつくなったり声が大きくなったりしているので、不適切保育と言われない為にも、職員それぞれがもっと自覚すると共に、子ども主体の保育について保育のあり方そのものや行事のやり方等考え直す必要がある。もっと自分達を振り返る為にも少人数の話し合いの時間を持つ、パートも参加出来る会議を持つ等、意識統一について出来る事を実践してみたい。落ち着いているクラスもあるが、保育士の都合の良い落ち着いたクラスにするのではなく、サークルタイム等自分の思いがきちんと言えたり、自分達で問題が解決出来たりするような環境整備をして、自ら・友達と協力して遊び込める子どもを育てるような保育のあり方を模索していきたい。学校とのかけ橋カリキュラム等連携に取り組まないといけないので、園の中に担当者を置いたり、学校との交流を積極的に取り入れる等取り組んでいくと共に、年長だけでなく年齢により学校へ関心が持てるような取り組みを考えていく。「出来る事からコツコツと」をモットーに、こどもまんなか保育が出来ように職員のゆとりも大切にカリキュラムや書類等も検討していきたい。